

## 甘藷に対するCATの除草効果について

田爪 静夫・中原 浩二  
(宮崎県農業試験場 都城分場)

TAZUME, S. and NAKAHARA, K.

On the Effect of Weeding of CAT to the Sweet Potato.

宮崎県の甘藷栽培面積は畑の約6割を占め、畑夏作物の基幹作物であるが甘藷畑の初期の除草は麦、菜種の収穫、田植等と労力が競合するため、除草がおくれがちとなり雑草が繁茂するので、甘藷の初期生育が劣り、収量に影響することが多い。このため昭和35年以降、甘藷の初期雑草防除を目的として各種除草剤について検討を行ったが、CATの除草効果は大きく、実用価値が高いと思われるのでその成績の概要を報告する。

## I. 試験方法の概要

項目	昭和35年度	昭和36年度
供試品種	農林2号	農林2号
挿苗月日	6月16日	6月14日
処理月日	PCP 6月13日 CAT 6月23日 DCMU } 6月23日	CAT・CDAA DPA 6月21日 DCPA 7月5日
処理方法	土壤全面散布	土壤全面散布
散布水量	1a当り 12l	1a当り 12l
雑草調査	7月23日	7月21日
供試圃場	火山灰砂壤土	

## II. 試験区の構成

処理別	35年	36年	処理別	35年	36年
無処理	○	○	DCMU 10	○	—
標準	○	○	DPA 25	—	○
CAT 5	○	○	DPA 50	—	○
CAT 7.5	○	○	CDAA 25	—	○
CAT 10	○	—	CDAA 50	—	○
PCP 150	○	—	DCPA 30	—	○
DCMU 5	○	—	DCPA 40	—	○
DCMU 7.5	○	—			

注：標準区は雑草調査の中間で1回除草。

## III. 試験成績の概要

## 1. 甘藷の生育、収量調査

薬害：DCMUは5gmでも下葉が枯死した。その他の薬剤では薬害はみられなかった。

生育：無処理は雑草が多く初期より生育は劣った。PCPは薬効が短かく後半雑草が繁茂し、DCMUは薬害のため初期生育は劣った。DPAは茎長は短かいが分枝数が多く、その他は標準区と差はなかった。

収量：雑草の発生が多かった無処理とPCP区が標準区より減収したがCAT、DPA、CDAA、DCPAは標準区と差はなかった。又DCMUは初期に薬害が

出たが減収はしなかった。

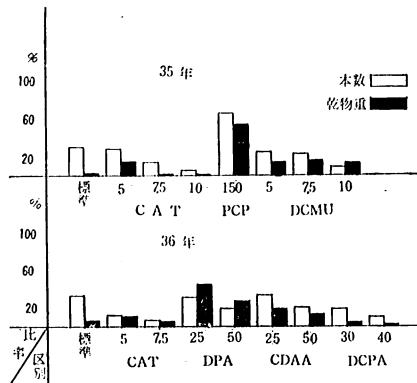
## 2. 雑草調査

## 発生した雑草の種類

発生本数の多かったものはメヒシバ、オヒシバ、カヤツリであつたがDPAではスベリヒユが多かつた。

## 雑草の抑制効果

第1図 発生本数及び乾物重無処理比



第1図に示す如く、PCP=植付前に処理したが植付時に畦の表面が崩れ雑草の発生が多く効果は劣った。DCMU=除草効果はあるが5gmでも薬害が出た。CAT=供試除草剤中効果は最も高く5gmでも無処理に対して発生本数で70~90%、乾物重で85~90%の雑草を抑制した。DPA、CDAA=効果はCATよりやや劣る。DPAはスベリヒユの発生が多かつた。DCPA=発生本数はCATより多いが乾物重は最も少なかった。

以上の様な結果からみて甘藷に除草剤を使用する場合は植付前よりも植付後に散布した方が効果は高い。

CATは両年度共に植付後処理しても薬害はなく、雑草の抑制効果も高く、収量も標準区と差がないので、植付後に使用する除草剤としては最も適していると考えられる。使用量は土壤の種類によつて異なるが、火山灰土壤においては1a当り成分量で5~7.5gmが適量で散布時期は植付後1週間以内が最も効果は高い。